

[課程－2]

審査の結果の要旨

氏名 渡邊 麻衣子

本研究は訪問看護事業所で働く訪問看護師を対象に、グラウンデッドセオリー法による半構造化面接及び参与観察を通して、訪問看護師の就業継続及び就業継続に関係する管理者や同僚の関わりを説明するモデルを生成したものであり、以下の結果を得ている。

- 1) 働き続けている訪問看護師がどのように就業継続しているのか分析した結果、実践の意味を発見し続けながら就業継続していた。訪問看護師は実践の意味を発見し続けると共に、「仕事が難しい」「仕事が楽しい」「仕事が物足りない」という感覚を巡っており、これらはサイクル構造として示された。「仕事が楽しい」感覚では離職の可能性は低く、「仕事が難しい」「仕事が物足りない」感覚が長期化すると離職の可能性が高くなっていった。
- 2) 働き続けている訪問看護師が就業継続に関係すると認識している管理者や同僚の関わりを分析した結果、《実践の意味を発見し続けるよう後押しされる》が概念化された。訪問看護師は、自分の力量と見立てを確認してもらい、自分の見立てに信じて任せてくれた上で、困ったときは力を貸してもらい、共感と承認を得るために分かち合うことで、自由な実践の後ろ盾を得ていた。また、訪問看護師は気づきをもたらす会話にさらされ、課題の種を受け取り、自ら動き出せるように時間をもらえるという、訪問看護師自身による気づきを得る仕掛けに囲まれていた。
- 3) 以上のように、訪問看護師は実践の意味を発見し続けながら就業継続しており、管理者同僚から《実践の意味を発見し続けるよう後押しされる》関わりが、訪問看護師が実践の意味を発見し続けることを促していた。これらの関係を図示しモデルを生成した。

以上、本論文は半構造化面接と参与観察を用いて、今まで顧みられることの少なかった訪問看護師の就業継続及び就業継続に関係する管理者や同僚の関わりを説明するモデルを生成し、訪問看護師の就業継続支援について示唆を得た。本研究により生成されたモデルは、訪問看護師自身の視点から、訪問看護師に起こる変化と管理者や同僚の関わり関係を示した点に独創性がある。訪問看護師自身の振り返りの手段として、また、訪問看護事業所の管理者や同僚が具体的な支援を行うための指針として活用できる知見を提供できた点で、実践に重要な貢献をなすモデルを生成したと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。